

2024 年度 第 22 回神奈川県人権教育研究大会 参加者アンケート集約

(1) あなたの所属をお答えください。

小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	教育行政職員	組合
56	24	16	12	16	2

(2) 今回の研究大会をどのようにしてお知りになりましたか。

教育委員会 からの連絡	人推協 の開催案内	組合からの案内	校長会 からの連絡	その他・不明
87	18	12	5	3

(3) 本研究大会への参加について服務上の扱いについてお聞かせください。

出張	職専免	業務	年休	勤務日以外
115	3	4	3	1

(4) 全体会について

① 記念講演についていかがでしたか。

大変よかった	よかった	普通	あまり良くなかった	良くなかった
47	60	12	2	1

②全体会へのご意見、ご感想をお聞かせください。(抜粋)

- ・ 教育の機会均等について、最前線で活躍されている方のお話が聞けて、よかった。
- ・ どこに住んでいるかなどの条件によって子どもの学びに差が生まれるといった課題について改めて考えることができた。学びの平等を実現することの難しさに気づき、そのために何ができるのか少しでも改善できるように、できることを工夫していきたい。
- ・ 記念講演「子どもの権利から考える学びの平等」では、不登校の子どもの居場所となるフリースクールを運営する側の貴重なお話を聞くことができた。自治体により運営資金の違いもあること、ギリギリの生活の家庭では、必ずしも学びの権利は保障されていない実態だが、鈴木さんのフリースクールでは川崎市の就学援助金で様々な体験活動をさせているなど。様々な特性があり、教室に居られない子どもにも学びの権利はある。そのような子どもを受け入れる校内フリースクールのような体制が各学校に整う日が来るだろう。
- ・ 実践や実際の保護者の様子、アメリカの教育課題について聞くことができ、知見が広がりました。
- ・ 発達に課題がありそうな子どもたちや、生活困窮者に寄り添った支援が大変興味深かったです。
- ・ 子どもの学びの保障を学校の枠からもっと広く捉えることで、子どもの生存権や成長を支えることの本質に迫り、学びの保障をどう捉えるかに思い至る機会になった。
- ・ 子どもの不登校による保護者の困りや現代の貧困の実態について知ることができた。
- ・ フリースクールの現状、考え方について知ることができた。学校とは違う環境があること、子どもに寄り添う場所であることを知れた。
- ・ 障害や経済的な事情で学校という空間に馴染めない子どもたちに、安心できる居場所が必要であると感じました。
- ・ すべての子どもたちに学びの保障をすること、自己肯定感を育む居場所づくりに携わりたいと思った。
- ・ 地域、国によっての違いより、より良くするための方向性がわかりました。

(5) 分散会について

① 参加された分散会はどちらですか。

第1分散会	第2分散会	第3分散会	第4分散会
27	37	25	28

② 分散会の研究討議の内容はいかがでしたか。

大変よかった	よかった	普通	あまり良くなった	良くなかった
46	59	10	2	0

③ 分散会へのご意見、ご感想をお聞かせください。(抜粋)

- ・ 報告された学校の取組に賛同できた
- ・ 具体的な実践の発表でとてもわかりやすかった。インクルーシブ教育のあり方を学ぶことができた。
- ・ 人権尊重とはどのようなことなのだろうということを考えさせられた。小学校から高等学校までの取り組みについて聞くことができてよかった。
- ・ 勤務校以外の取組やそこに携わる教員の思いを知ることができた。
- ・ 学校でできる(かもしれない)取組の事例や、意義を知ることができた。
- ・ インクルーシブ教育の難しさを実感しましたが、普段、支援クラスと通常クラスが交流することによって、様々なプラスに働く場面が見られます。難しいテーマではありますが、常に新しいやり方を考えての試行錯誤が大切だと感じました。
- ・ なかなか知ることのできない各学校の取り組み、さらにはその取り組みをするための準備等教員視点での取り組みについても知ることができ、とても良い時間となった。
- ・ 質疑と討議を同じ時間程度とるのであれば、事前に参加者がテーマについて各校の取組を話せるように準備してもらう工夫が必要かもしれません。
- ・ ①発表1につきましては、それぞれ別々の学校で勤務されている中、お互いに連携を取りながら準備されたのは大変だったのではないかと思います。3人でバランスを取りながらやられていたと思います。②発表2につきましては、私も2年前まで横浜の高校に勤務しておりましたので、身近な高校の発表というような感じで話を聞くことができました。インクルーシブ教育の取り組みが理解できました。
- ・ 自己肯定感を育む取り組みについて知りたかった。また、高校におけるインクルーシブ教育の具体的な実践に興味があった。
- ・ 修学旅行に行けなかった子ども達への取り残しのない配慮が難しい。城郷高校は、フェアトレードの取り組みで能登の支援をしたことが、素晴らしいです。
- ・ インクルーシブ校の話を伺いたかったため。